

「ブログからみえる若者言葉の『ってゆうか』
—社会言語学的研究への示唆—」

林 千 賀*

Analysis of "...tte iu ka"
—A proposal for sociolinguistic analysis—

Chiga HAYASHI

Recently, with the advancement of the Internet, there are many people using weblogs to write and publish their diaries. The distinctive feature of these "diaries" is that they are written in spoken language rather than the traditional written language.

When analyzing the usage of "tte iu ka" in those diaries, the author found that palinode usages of "tte iu ka" were by far the most commonly used (70%), whereas other usages such as topic shift, abbreviation and exordium usages were not popular (30%).

Traditionally, unpopular usage of "tte iu ka" appearing in weblogs, has been the focus of sociolinguistic analysis. However, when analyzing "tte iu ka", especially in the spoken usages of "tte iu ka", we may have to focus on the latitude of palinode usages and their distribution in quantitative analysis.

This paper compares and discusses the historical analysis of "tte iu ka" and the data analysis of "tte iu ka" in weblogs. Also, the author will examine through example sentences from actual weblogs, where palinode usages appear most and in what context.

(* 城西国際大学 助教授)

キーワード：ブログ、前置き表現、トピックシフト、社会言語学的研究

1. はじめに

近年、インターネットの普及に伴い、ブログという日記調の書き込みがインターネット上にあふれている。ブログの特徴は従来の書き言葉調ではなく、全て話し言葉調で記されていることである。そして「ってゆうか」「つうか」などは、ブログに頻々に現れる表現の1つである。

「ってゆうか」は『現代用語の基礎知識』では、若者言葉の曖昧表現として「話を切り出す時の意味のない前置き」と語釈されている。つまり、「ってゆうか」それ自体には意味がなく、前置き表現というのである。また、「前置き表現」以外にも「トピックシフト」などの機能もある。

しかし、「意味がある」という立場をとっている先行研究もある¹。

(1) 太郎：「マック行こうか」

花子：「ってゆうか、和食食べたいんだけど、、、」

この会話の「ってゆうか」は、相手（太郎）の言った意見を緩和しながら、否定して自分の意見を言う前に用いている。しかし、「そうじゃなくて」のような強い否定ではなく、相手の意見をとりこみながら自分の言いたい事を主張している。これは「マックに行こうってゆうか和食に行こう」と言うように「A（マック）というよりB（和食）だ」という意で「ってゆうか」が使われている。この場合は、会話の相手の発話に対する言い換えで、「AというよりBである」という意味の機能がある。「ってゆうか」のもともとの意味は「どうか」である。

(2) 人がいいどうかバカどうか、あの人のお人好しぶりには腹が立つこともある。

沖（1999）は、(2)のような「どうか」を旧来型と呼び、会話の中で使用された「ていうか」を分析している。他にこのような旧来型の機能から接続的用法に拡大したもの（梅澤1999）、副詞的用法に拡大したもの（沖1999）、呼びかけに拡大したもの（梅澤1999）などの用法があるとされている。

一方、社会言語学的先行研究では、若者言葉の単なる意味のない前置き表現の会話調のデータを分析の対象にして「ってゆうか」の使用頻度や許容度の分布を全国調査で量的に研究を行っている（塩田2003 a、2003 b、辻1999 a、1999 b）。しかし、前にも述べたように「っゆうか」はそれ自体に意味があったり、なかったり、また旧来型からの接

続的用法への拡大あるいは副詞的用法への拡大あるいは「前置き表現」、「トピックシフト」であったりと多機能的である。そんな多機能の「ってゆうか」を社会言語学的先行研究では、単なる前置き表現とし単一な用法だけを分析対象にしている。

筆者は、ブログの「ってゆうか」の社会言語学的な研究を行う際には、事前に「ってゆうか」についての十分な言語的分析と分析対象となる使用頻度のパイロットテストが必要であると考え、従って、社会言語学的研究を行う前段階として、ブログにおける「ってゆうか」の言語分析とその使用の分析を行うことを本稿の目的とする。そして、実際に若者言葉として使用される「ってゆうか」には、どのような意味・機能があるのか、ブログから「ってゆうか」を取り出し分析対象とする。また、インターネット上のブログから「ってゆうか」を取り出すため、独話型のタイプを分析の対象とし、分析を行った。

その結果、会話調の「ってゆうか」の先行研究の分析対象とは異なった「ってゆうか」の使用がブログではみられた。そしてパイロットテストによって得られた結果をもとに、今後のブログにおける「ってゆうか」の社会言語学的な研究を行う場合の分析対象となる用法を提示した。

「というか」は会話上では「ていうか」になり、軽い促音が伴って「っていうか」となった。ブログでは「ってゆうか」や「つうか」などの表現が頻々と見られる。従って、本稿では「ってゆうか」「つうか」等と「ていうか」を同義として扱うこととする。また、もともとの用法が習慣化され「前置き表現」や「トピックシフト」、などに拡大したものを「語用的用法」と呼ぶこととする。

まず、先行研究で「ってゆうか」にはどのような用法があるのか、概観することとする。

2. 先行研究

「ってゆうか」の先行研究を概観する前に若者言葉とはどのようなことか先に述べる。井上(1988:562)は「若者語」を「若者がよく使い、ほかの世代の人があまり使わない言葉、あるいは若者に特徴的とされる言葉」と定義している。また米川(2001:95)は、「十代後半から三十歳ぐらいまでの男女が仲間内で、娯楽・会話促進・連帯・イメージ伝達・緩衝・浄化などのために使うことばで、ことばの規範からの自由と遊びを特徴とする。個々の語についての個人の使用・言語意識にかなり差がある。」と定義している。

「ってゆうか」も若者言葉の曖昧表現であるとされている。「ってゆうか」について、冒

頭でも述べたように『現代用語の基礎知識』では、「話を切り出す時の意味のない前置き」と説明している。また、山口（1997：175）は「ただの話し始めに口にする意味のない言葉」としている。

しかし、多くの先行研究では、「ってゆうか」を若者言葉の「意味のない前置き表現」とはせず、「否定」を表す「というか」と同じ用法の「ていうか」が習慣化され、それ自体には意味がなく自立語として使用され、語用的機能へと拡大した表現であるとしている²。

では「ってゆうか」自体にはどのような意味や用法があるのだろうか。「否定」の意味を表す時に「ってゆうか」で言い換える用法、「ってゆうか」の前件が省略されている用法、「ってゆうか」でトピックシフトが起こっている用法、「ってゆうか」が前置きの表現になっている用法の先行研究を順に概観することとする。

2.1. 「ってゆうか」で言い換える用法

まず、「いいえ」という否定の形を使用せずに、相手のことをやや控えめな否定「ってゆうか」で言い換える用法について先行研究から概観することとする。

(3) 人がいいというかバカというか、あの人のお人好しぶりには腹が立つこともある。

(4) a 「これおいしくない？（ですか？）」

b 「ていうかちょっとおいしくない。」 梅澤（1999：80）

(3) や (4) の「ってゆうか」（というか）は、「いいえ」とか「そうではなくて」とか「というより」のような「否定」の形でなく、自分の発話あるいは、相手の発話を真っ向から否定しないやや控えめな否定という表現であるという捉え方をしている先行研究が多い（メイナード2001；沖1999；塩田1998、2001、2003 a、2003 b；辻1999 a、1999 b）。やや否定をしておいて「ってゆうか」の後件で自分の本当に言いたいことを言い換える表現である。そして、辻（1999：17）は、「日本人はイエス・ノーをはっきり言わぬ民族と言われ続けて久しい。若者の間では、この傾向はもっとも顕著に見える。言い回しの節々に、相手との対立を避けたがる表現」として「ってゆうか」について説明している。

このような「否定」をあらわす言い換えの「ってゆうか」には、自分の意見を「ってゆうか」で「やや否定」し、真意を言い換える独話型のタイプと相手の発話を否定して自分の意見を主張する会話型のタイプがある。(3) は独話型で、(4) は会話型のタイプである。

(3)の独話型は、前にも述べたが旧来型の用法である。沖(1999)は、「というか」の文型を三種の変異形にまとめ、これを旧来型と呼んだ。そして(5)のような「というか」の意味をふまえた上、会話上で使用されている「ってというか」を分析した。(3)の独話型の「というか」は(5)の①のタイプである。

(5) ①Aというか、Bというか、C。

②Aというか、B、C。

③AというかC (沖1999:81)

また、(4)の「ていうか」を梅澤(1999:80)では次のように解説している。(4) aの今食べているものが「おいしいね。」と同意を求めるような発話に対して話者(4) bが、「いいえ、私はおいしくは感じない」というべきところの「いいえ」という否定を使用せずに表明するために使用していると説明している。つまり、(4)は前件(おいしい)というか後件(おいしくない)ということができ、AというよりBだの(3)の独話型の前件(人がいい)というか後件(バカ)と同じ用法と言える。

本稿では、本節のような「ってゆうか」を「言い換えの「ってゆうか」と呼ぶこととする。次に前件や後件の省略について概観する。

2.2. 前件や後件の省略

本節では、否定の意味は残りつつも「前件」あるいは「後件」が省略されているため「ってゆうか」の前後関係が何の脈略もなくなってしまった「ってゆうか」の用法について先行研究から述べることとする。

(6) a (鞆を友達に預けようと鞆を渡そうとして)「私、ちょっとトイレに行ってくる。」

b (鞆を受け取らずに)「ていうか私も行く。」(梅澤1999:80、括弧内は林がまとめた)

(6') a 「私、ちょっとトイレに行ってくるからこの鞆、持っていてくれない」

b 「鞆をもってあげるっていうか私も行くから鞆は持てないわ」(下線は林による)

(6)の会話は、友達に鞆を預けようとするが、結局はbに断られ、bもトイレに行くことを伝えている。この「ていうか」の前件が「トイレに行ってくる」であれば、「トイレに行ってくるていうか私も行く」では意味が通らない。梅澤(1999)では、「私も行くから鞆をもてないわ」という意味を「てゆうか」に込めっていると説明している。

梅澤(1999)のこの説明を沖(1999)と林(2007b)の分析に習って解釈すると、(6')のように「私、ちょっとトイレに行ってくるからこの鞆、持っていてくれない」と下線部分のように省略部分を補充することができる。そして(6) bの発話も「鞆をもってあげる

「っていうか私も行くから鞆は持てないわ」と「ていうか」の前件と後件の省略部分を下線部のように復元すると、この「ってゆうか」にも「言い換え」の機能があることがわかる。このような省略された文脈情報を理解することができるのは、話し手がある要素を省略しても、それを聞き手にはわかるはずであると堀口（2000）は会話の「省略」について説明している。「ていうか私も行く」で聞き手 a は、鞆はもってこないのだなということが理解することができるのがわかる。このような省略箇所の復元をすることは表出命題を同定するための一つの作業であり、それに推論が働き発話の解釈が行われる。このような解釈のための理論に関連性理論がある³。

本稿では、このような「ってゆうか」を「前件や後件の省略の『ってゆうか』」と呼ぶこととする。また、このように「省略」要素を復元することによって「ってゆうか」には「言い換え」の用法と同じ機能があると言えるが、塩田（2003 a）や辻（1999）などの先行研究では、このような「ってゆうか」は、「前置き表現」に拡大した語用的な若者言葉の用法であるとした。メイナード（2004）では、このような拡大の現象は文法化が起っていると述べている。次にトピックシフトについて概観する。

2.3. トピックシフトの「ってゆうか」

本節では、「ってゆうか」が何の脈略もなく話題を転換している「トピックシフト」の先行研究について述べることとする。

(7) ア「明日のレポートまだ書いてないよ。どうしよう。」

イ「私も。はやくやらなきゃね。」

ア「そうだね。ていうか、今日寒いよね。」（沖1999：83）

(7) のアの「ていうか」は、相手との会話の流れをこわさずに次の話題に転換している。このような話題がシフトしている「ってゆうか」は、林（2007 a）⁴の先行研究以外では全て、本来の2.1.のような「否定」、「反論」のような用法を使用しているうちに、本来の「否定」の意味は失われ、トピックシフトの語用的用法へと拡大化された用法である（沖1999；塩田1998、2001、2003 a、2003 b；辻1999 a、1999 b）としている。

砂川（2004：42）は、このような話題を転換する「っていうか」の使用について「明瞭さを嫌う気分がある（中略）ふと思いついたことを相手に配慮することなく気ままに述べているという気安さが感じられる」と述べている。

本稿では、このような「ってゆうか」が語用的に拡大した用法を「トピックシフトの『ってゆうか』」と呼ぶこととする。次に前置き表現の「ってゆうか」について概観する。

2.4. 前置きの「ってゆうか」

本節では、「ってゆうか」で前置きして「ねえ」や「ちょっと」などのように「呼びかけの言葉」と同じ働きをする「前置き」の用法について述べることにする。

(8) a 「ていうか消しゴム貸してくれない。」

b 「いいよ。」(梅澤1999: 80)

(8) は消しゴムを隣の席に座る友達に借りる時に「ねえ」、「ちょっと」といった呼びかけの言葉として「ていうか」を使用している。梅澤(1999: 81)は、「ていうか」の使用者にとっては、「ねえ」「ちょっと」と「呼びかけの言葉」と同じ働きをし、それは習慣化して拡大された用法であると述べている。(8)の「ていうか」自体には否定の意味はないとしている⁵。

メイナード(2004, 2005)は、「ていうか」を発話や文の中でどの位置に用いられているかに着目し、「Xていうか」と「ていうかY」とXやYから独立した「ていうか」に分類し、それぞれの意味を際立たせて分類している。そして「ていうかY」の前置き表現の用法を「本音の前触れ」と呼び、Yが本音に近い内容である場合の前置きとして「ていうか」が使用され、相手に対する態度の伝達や、発話行為の調整や管理の機能があると述べている。また、「ていうか」単独で使用される場合は、発話行為の前置き表現としている。

本稿では、このように「ってゆうか」が語用論的に拡大した用法を「前置きの「ってゆうか」と呼ぶことにする。以上、「ってゆうか」について4つのそれぞれの機能を概観したが、次に「ってゆうか」を社会言語学的に分析した先行研究について概観する。

3. 社会言語学的先行研究

社会言語学的に「ってゆうか」の使用についての分析を行った先行研究には、塩田(2003 a、2003 b)や辻(1999 a、1999 b)などがある。本稿では、塩田(2003 a)の先行研究から概観することとする。塩田(2003 a)は、「ってゆうか」や「とか」、「やばい」、「大丈夫」などの言葉をNHK放送文化研究所でおこなった全国調査⁶で(9)のような「っていうか」の用法に関して、「何を通して見聞きしたことがあるか(あるいは見聞きした経験があるかないか)」についてインタビューした。そして、(10)のように報告した(下記は林が簡単にまとめた)。

(9) Aさん「これ、どう？」

Bさん「っていうか、こっちのほうが似合いそう」(塩田2003 a: 16)

(10)

- ①調査対象のことば・用法について「人が話すのを直接聞いたことがある（以後「直接」）」と「テレビで見聞きしたことがある（以後「テレビ」）」という2つのパターンが優勢であった（他にラジオ、新聞、雑誌、漫画、メールなどの接触経験などがあった）。
- ②①の両者の関係は「直接」の方が「テレビ」より多く（ $n=1369$ 人（複数回答）に対し、「直接」が63%で「テレビ」が42%）、この種のことばが広まるのは、テレビの占める位置は人間の直接接触ほどは大きくないことが伺われる。メールでの接触経験者はたったの3%のみであった。
- ③調査対象のことば・用法をおかしいとおもうかどうか、や、自分も使うかどうかは、人的直接接触経験があるかどうかに関連している可能性がある。
- ④男女差の点では、「自分で使うかどうか」において差があることがわかった（使用率は女性は34%で男性は23%であった）。
- ⑤使用に関する年代差の面では、20代に近づけば近づくほど使用頻度が増え、60代に近づけば近づくほど減ることが明らかになった。
- ⑥地域差について接触度・許容度・使用度という観点から見ると、北海道はすべて高く、北陸・関西はすべて低い。

では、次に(11)の用法を言語的に分析してみよう。これは、先行研究の2.2.の省略の用法と同じであると言える。(11')のように「っていうか」の前件が省略されている。

(11) Aさん「これ、どう？」

Bさん「っていうか、こっちのほうが似合いそう」(塩田2003a:16)

そこで、(11)の省略箇所を復元すると(11')のようになる。

(11') Aさん「これ、どう？(私に似合う?)」

Bさん「うん、似合うっていうか、こっちのほうが似合いそう」

(11')の下線部は、省略箇所を復元して埋めた部分であるが、復元したことによってこの「ってゆうか」は、「言い換え」の「ってゆうか」と同じ意味であることがわかる。しかし、先行研究(2.1、2.2、2.3、2.4)で概観したように「ってゆうか」の用法はもとの「というか」から拡大した用法が含まれ、多機能である。「ってゆうか」で否定し、言い換える用法以外に「前置き」や「トピックシフト」など語用的に拡大した用法もあるのである。本稿では、先行研究に従い、(11)のような「っていうか」を「省略の「ってゆうか」」と扱うこととする。

では、次に「ってゆうか」が実際にどの用法で多く使用されているのか、ブログの中で使用されている「ってゆうか」を分析の対象とし、社会言語学的研究のための前調査としてパイロットテストを行ってみた。

4. 分析方法とデータ

パイロットテストについての結果を述べる前に、本章では、分析方法やデータについて述べるとする。

本稿では、「ってゆうか」の使用の頻度を分類するためコンピュータからブログの「ってゆうか」を検索し、100の「ってゆうか」を無作為に取り出した。手順は以下の通りである。

(ア) ブログから若者が書いたと思われる⁷「ってゆうか」を検索し取り出す。

(イ) 「ってゆうか」を「AというかB」と前件Aを後件Bに「言い換え」たものと「省略」、「トピックシフト」、「前置き」などの語用的用法で使用されているものに分類した（言い換えは句を言い換えたものと節を言い換えたものに分類した）。

これらの手順に従って、100のデータを集め、それぞれ「句の言い換え」、「節の言い換え」、「省略」、「トピックシフトの「ってゆうか」」、「前置き」の5つの「ってゆうか」に分類した。

5. 分析結果と考察

本章では、先の手順に従い分類した。その結果についての分析と考察を述べることとする。データを分類すると表1のような結果がでた。

表1 「ってゆうか」のブログにみられる頻度

①句の言い換え	②節の言い換え	③トピックシフト	④省略	⑤前置き	合計
36	34	12	11	7	100

「言い換え」は、句を言い換えたものと節に言い換えたもの2つに分類したが、「言い換え」の小計は、70あり、全体の70%であった。言い換えは「ってゆうか」に「否定」の意味があり、多くの「ってゆうか」(70%)は、自分の意見の前件を否定しさらに「てゆうか」の後件で言い換える用法であったことが、分析の結果からわかった。

塩田 (2003 a) の調査では、本研究結果の第 4 位の「省略」の用法の使用頻度 (11%) を分析の対象としていた。先行研究の対象は「会話型」の「っていうか」からの分析であり、本稿の「独話型」の「っていうか」とは異なるので、第 4 位の「省略」の用法が調査の対象となっていたことには異論はない。また、頻度が高いからと言って調査対象にすべきだというのではなく、なぜ、その用法を分析の対象としたかの根拠を述べることが重要である。

しかし、仮に、句や節の言葉の言い換えとしての用法 (本研究結果の第 1 位と第 2 位)、つまり「A というか B」のような言い換えの機能で「ってゆうか」の使用頻度や許容度の調査を行えば、「人が話すのを直接聞いたことがある」と答えた人の割合が先行研究の 63% より高まっていたであろうし、メールの接触経験も先行研究の 3% より高まっていただろう。

そして、ブログ上の「っていうか」の分析でわかったことは、若者言葉で使用される「っていうか」は、①句の言い換え、②節の言い換え、③トピックシフト、④省略、⑤前置きなどの用法があり、単なる意味のない前置き表現だけが優勢でないことがわかった。つまり、若者がブログ上で使用している「っていうか」は多機能であることが分析の結果からわかった。

そして、今後、ブログにおける独話調の「ってゆうか」の使用頻度や許容度、接触度を調査する社会言語学的研究を行う際には、本稿のような言語分析の結果をふまえた上で調査を進めるべきではないかということをご提案することとする。

ではデータの中から具体的にどのような用法で「ってゆうか」が使用されていたのか、実際のデータから概観することとする。

5.1. 言い換えの「ってゆうか」

本節では、使用頻度第 1 位と第 2 位の「言い換えの「ってゆうか」」をブログのデータから考察することとする。

(12) エッセイ風ってゆうか、物語風ってゆうか、日記風ってゆうか、、、ノージャンルなテキストで、そんで、その中で番外編ってゆうかタイガースに触れてる回だけを抜粋したところが、、、

(13) とうとう今日で休みも終わりだ。明日仕事いけるか？ってゆうか起きれるか？ちょー心配。ってゆうか行ったら行っただけで仕事地獄まっせー。

まず、データからは、(12) のような前件と後件が名詞句の言い換えの場合と (13) の

ような節の言い換えの場合があり、それぞれ第1位で36%と第2位で34%であり、全部で70の「ってゆうか」が検出された。ブログの書き込みには、(12)と(13)のような「ってゆうか」の用法が最も一般的であり、若者たちの使用頻度が高いことがわかった。従って、ブログにおける「ってゆうか」の社会言語学的調査を行う場合は、言い換えの「っていうか」を選択するべきではないだろうか。しかし、分析目的によっては、その選択は慎重であるべきである。

次に使用頻度第3位のデータについて述べることにする。

5.2. トピックシフトの「ってゆうか」

この節では、使用頻度第3位(12%)の「トピックシフト」のデータについて考察する。

(14) とりあえず今日もたくさんピアノ弾かなきゃな。あああああってゆうか雨とかやたらすごいんだけど最近!

(14)のデータもブログなので独話調である。これは、「ってゆうか」でトピックシフトがおこっている。今までの話題を「ってゆうか」で次の話題へとシフトしているのがわかる。この用法は100のうち12検出され第3位の頻度率であった。このように何の脈略もない接続的な用法は、もともとあった旧来型の「というか」の用法から語用的用法へと拡大していった用法であると先行研究では述べられている。

次に使用頻度第4位のデータについて述べることにする。

5.3. 前件や後件の省略

本節では、第4位の「ってゆうか」の前件や後件が省略されていて、あたかも語用的用法かのようにみられている「省略」のデータについて考察することとする。

(15) 病み上がりなのに温泉日帰り旅行に行っちゃいました? 久々に会った友達だったんでちょーおもしれー一日だったけど病み上がりの長距離運転に若干↓(ダウン気味)って感じ?。ってゆうか出発3分後に「ねーさん事件です!」級の事件勃発? 信号待ちをしていたら、、、(と続く) (括弧内は林の解説)

(15') 若干ダウン気味って感じ? ひどい目に合った。ってゆうか出発3分後にもっとひどい目にあった出発3分後に「ねーさん事件です!」級の事件勃発

(15)は、「ってゆうか」の前件が曖昧であるが、(15')でその曖昧部分の空所を埋める(下線部)ことによって自分の言ったことを付け加えて言い換えている。このような表現を先行研究では前件が省略されているので本来の「ってゆうか」の用法とは同じには扱わ

ず、若者言葉の新しいタイプの用法であるとしている。従って、若者言葉を調査するには相応しい表現であるかもしれないが、5つの用法のうち、どれが一番、若者言葉らしい用法なのかの先行研究は筆者の知る限りない。「省略」の用法は、本研究の研究結果にはあまり高い頻度では現れていなかったが、その点においては分析データが「会話調」と「独話調」で異なっているので断定は避けなければならないので、「会話調」の分析は今後の研究課題としたい。

最後に使用頻度第5位のデータについて述べることにする。

5.4. 前置きの「ってゆうか」

本節では、第5位の「前置きの「ってゆうか」」がどのような事例だったのか、概観することとする。

(16) 08/11 (水)

ってゆうかなんか知らんけど目がいて？なんでだろうー×2ー♪ーって感じ。。。

目薬さしてだいぶよくなっただけ、...

(15)の用法は日記調(ブログ)でいきなり、「ってゆうか」で始まっている。これでは何に対して言い換えているのか不明で、このような表現は若者言葉の意味のない「前置き」表現と言われている典型的な例であろう。これは冒頭で述べたように『現代用語の基礎知識』では、若者言葉の曖昧表現として「話を切り出す時の意味のない前置き」と説明されているが、それに当たる用法であると考えられる。しかし、本稿の分析では使用頻度が一番低いことがわかった。

本研究ではブログのデータを分析の対象としたためこのような結果がでた。今後、ブログにおける「ってゆうか」の社会言語学的調査を行う際には、「言い換えの「ってゆうか」」を対象として分析を行ってはどうか。しかし、分析目的によっては、安易に頻度の高いものを選ぶことが好ましいとは思われない。まず、本稿のような十分な言語分析を行い、使用頻度を把握することが重要である。次に、よく分析目的を考慮した上で分析対象を選び、量的研究を行うべきであると筆者は考える。そして、先行研究のように「ってゆうか」をひとくくりに単なる若者言葉の意味のない前置き表現としてしまうには問題があるのではないかと思う。

6. まとめ

筆者は、ブログの「ってゆうか」の社会言語学的な研究を行う際には、事前に「ってゆうか」についての十分な言語的分析と分析対象となる使用頻度の把握のためのパイロットテストが必要であると考え、ブログにおける「ってゆうか」の言語分析とその使用度の分析を行うことを本稿の目的とした。そして、実際に若者言葉として使用されている「ってゆうか」には、どのような意味・機能があるか、ブログから「ってゆうか」を取り出し分析を行った。

まず、「ってゆうか」の意味・用法の先行研究を概観した上で、ブログの中の「ってゆうか」を分析の対象とし、使用頻度のパイロットテストを行った。その結果、ブログの「ってゆうか」の社会言語学的な許容度や使用の分布などの量的研究を行う場合には、「言い換えの「ってゆうか」」を分析の対象とするべきであることを提案した。また、社会言語学的研究のアプローチとして調査の前には十分な言語分析が重要であることと、「ってゆうか」は多機能であるという特徴から、分析対象を選ぶ場合には、その根拠を示すことが重要であるということについても示唆した。そして、いくつかの先行研究にあるように「ってゆうか」を単なる若者言葉の意味のない前置き表現とひとまとめにして調査してしまうには問題があるのではないかと述べた。今後の課題は、社会言語学的研究の前段階として、会話における会話調の「ってゆうか」の頻度も調査し、独話調の「ってゆうか」と比べ、分析の対象となる言語分析をすることである。そして、このような言語的分析が今後の社会言語学的研究に貢献できればと考えている。

データ資料

<http://blog.business-i.jp/kajire/cat60580>
<http://www.konami.co.jp/am/musicwave/beforu/risa/>
http://homepage3.nifty.com/bluesky/critique_japan/makuranosoushi.html
http://www.konami.co.jp/am/musicwave/before/riyu/diary_200503.html
<http://home01.isao.net/ayanami/daiary/200107.html>
http://members.jcom.home.ne.jp/miku2001/tidal/self_tv3.htm
http://www9.plala.or.jp/haruru/diary/2004_diary/diaryharu200447.html
<http://kabomysself.hp.infoseek.co.jp>
http://www9.plala.or.jp/haruru/diary/2002_diary/diary_8.html
<http://www.yuzyvein.s56.xrea.com/rage-text/rage092.htm>
<http://www.society.2ch.net/t4est/read.cgi/mayor/1046532059/150>
<http://www.2.suk2.tok2.com/user/favb?y=2005&m=02&all=0>
<http://www.tanasachi.blogtribe.org>

<http://www.oneonefive8.jugem.jp>

引用文献

- Blakemore, Diane. 1992 *Understanding Utterances: an introduction to pragmatics*. Oxford: blackwell. [武内道子・山崎英一 (訳) 「ひとは発話をどう理解するか—関連性理論入門」1994.ひつじ書房]
- 林 千賀 2007 a 『『ってゆうか』は単なる意味のない前置き表現か—意味の観点から』昭和女子大学言語教育『コミュニケーション研究第二集』2007.3 発刊予定
———2007 b 「前置き表現の『ってゆうか』—関連性理論の観点から—」早稲田大学『言語文化教育学会』2007.3 発刊予定
- 堀口順子 2000 『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- 井上史雄 1988 「若者語」『日本語百科大事典』
- メイナード・泉子 2001 『恋するふたりの「感情ことば」ドラマ表現の分析と日本語論』くろしお出版
———2004 『談話言語学』くろしお出版
———2005 『日本語教育の現場で使える談話表現ハンドブック』くろしお出版
- 西山佑司 1995 「言外の意味を捉える」『月刊言語』第24巻4号 pp30-39大修館書店
- 沖 裕子 1999 「手のひらの言語学 (質問21)」『言語』第28巻5号 pp. 80-83
- 砂川有里子 2004 『っていうか』北原保雄編集『問題な日本語』39-43.くろしお出版
- Sperber and Wilson 1986 "*Relevance: communication and cognition*" Harvard College. [内田聖二・中達俊明・宗南先・田中圭子 (訳) 『関連性理論—伝達と認知』1993. 研究者出版]
- 塩田雄大 1998 「ことば・言葉・コトバ「ってゆうか」」『放送研究と調査』1998. 3 pp. 57
———2001 「ことば・言葉・コトバ「ってゆうか」再考」『放送研究と調査』2001. 6 pp. 61
———2003a 「「新興台頭表現」の属性差とメディア—っていうか、やなくない?—「近年の言語変化」全国調査から (1)」『放送研究と調査』第53巻4号 pp. 12-33
———2003b 「新しい言葉を使う人・使わない人—「近年の言語変化」全国調査から (2)—」『放送研究と調査』第53巻6号 pp. 70-83
- 辻 大介 1999a 「若者語と対人関係—大学生調査の結果から—」『東京大学社会情報研究所紀要』第57巻 pp.17-40
———1999b 『『とか』『ってゆうか』のコミュニケーションと友人関係—関西大学生調査報告書—』 (<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tsujidai/paper/index.htm>)
- 梅沢 実 1999 「『っていうか』の使用心理から探る中学生の友人関係」『日本語学』18: 14 pp.79-83
- 山口沖美 1997 『山口沖美の言葉の探検』小学館
- 米川明彦 2001 「位相語・集団語・若者語をめぐって」『国文学』第46巻12号 pp. 94

註

- 1 これらの先行研究には梅沢1999; 沖1999; 塩田1998、2001、2003 a. b.; 辻1999 a. b.; メイナード 2001、2004、2005などがある。
- 2 例えば、副詞的用法 (何の脈略もなく話題を転換する用法) (沖1999) への拡大、接続詞的用法 (「話は違うけど」などの用法) (梅澤1999) への拡大、呼びかけの言葉 (「ねえ」「ちょっと」) (梅沢1999) への拡大、言いよどみ (躊躇感を知らせる) への拡大 (メイナード2001、2004、2005) などがあげられる。
- 3 「ってゆうか」の省略について「関連性理論」で分析している論文、林 (2007 b) を参照の

こと。また、関連性理論に関しては、blakemore (1992)、Sperber and Wilson (1986)、西山 (1995)などを参照のこと。

- 4 林 (2007 a) では、このような用法ももともとの「否定」の意味が残っていると主張している。
- 5 この用法の林 (2007 a) 以外の先行研究では、本来の「ってゆうか」の意味を失い、語用的用法へと拡大した用法としている。
- 6 全国の満20歳以上の男女2000人、有回答数 (率) 1369人 (68.5%)、層化副次 (二段) 無作為抽出法、調査員による個別面接聴取法、2002年11月8日～11日実施。調査地は、157箇所である (詳細は塩田 (2003 a、2003 b) を参照のこと)。
- 7 データから若者であるかそうでないかは先行研究に従い、語彙の選択や内容で若者調に書かれているものをデータとして選んだ。